

第226回くらしの植物苑観察会 2018年1月27日(土)

桜草の植え替え体験

山村 聡(国立歴史民俗博物館くらしの植物苑)

くらしの植物苑では、特別企画「季節の伝統植物」として、春に「伝統の桜草」展を2002年より展示しています。桜草(日本桜草)は、江戸時代中頃以降に野生の中から探し出された変わり花をもとに多くの園芸品種が作り出され、最盛期には300種を超える品種が記録されています。現在でも愛好家などによって交配育種され、さまざまな花色・花形の新しい品種が作られ、楽しまれています。

当苑では、野生種や園芸品種(江戸、明治、大正、昭和、平成に作り出された)を約400品種収集し栽培しています。毎年1~2月頃に植え替えを行い、春に開催される「伝統の桜草」展で、約700鉢を展示しています。

今回の観察会では、基本的な植え替え方法(鉢植え)を行いながら、ご紹介したいと思います。

《準備するもの》

- ①鉢：素焼き鉢、山野草鉢、プラ鉢、ビニールポットなど
- ②培養土：市販されている草花培養土、朝顔や菊などの土を再利用
*栽培環境に合わせて赤玉土や軽石、鹿沼土などをブレンドしてもよい
(当苑では、赤玉土と腐葉土を主に軽石や鹿沼土を混ぜています)



赤玉土



鹿沼土



腐葉土



混ぜた培養土

- ③道具類：ふるい、手袋、ラベル、鉛筆など

《植え替え方法》

植え替え適期【11月~2月】

- ①鉢から出し、桜草を取り出す。*事前に他の植物が生えていたら取っておく。



②桜草に付いた土や腐った根、根茎を取り除く。



③芽分け（株分け）作業を行う。＊増えた芽（株）を取り外し、大・中・小のサイズに分ける。



④鉢底石（ゴロ土）を敷き、培養土を鉢の半分ぐらいの高さまで入れる。芽分け（株分け）した大きい芽（株）を植える。追いまわし式という並べ方で並べ、芽の配置（高さ・位置）に気をつけ、芽（株）を押さえながら培養土を1～2 cm程度かける。



⑤かけた培養土の表面が鉢の上縁（ウォータースペース）を2～3 cm程度あけておく。
植え替え後、水を与えて終了。



⑥開花後のひと手間として、新芽が培養土から出て乾燥しないようにするために、増し土作業（株元に新たに培養土を足す）を行う。

⑦3～6月ぐらいまでは、日当たりの良い場所、7～9月の高温期は半日蔭の場所で管理する。
桜草は、暑さと乾燥に少し弱いですが、寒さには強い。

.....

次回予告 第227回くらしの植物苑観察会 2018年2月24日（土）

「昔の人の身近な植物の利用について」天野 誠（千葉県立中央図書館 主任上席研究員）

13：30～15：30（予定） 苑内休憩所集合 申込不要